東海道53次の旅（4）
岡崎から二川

２０１４年11月15日、前回解散した岡崎からの旅。家康生誕の岡崎城を見学してから、岡崎の27曲がりとして知られる岡崎宿を歩いた。岡崎城下の東海道は、城の近くを通らないように曲げられ、宿場の長さは1里51間（4・02キロ）もあった。

ようやく岡崎宿江戸口にたどり着き、藤川宿に向かう。秋葉神社常夜燈や東海道碑が並ぶ旧道を歩き、藤川宿入口の松並木に着いた時は日没近かった。宿場の中ほどにある脇本陣は門が残り、建物の一部は資料館になっている。隣の本陣跡は高札場と冠木門が復元されている。

この日は、今年3月で営業をやめた赤坂宿の大橋屋で泊まった。広重の浮世絵にも描かれた大旅籠（はたご）で、表に掛けてある大ちょうちん、中庭の石灯籠など昔の面影を残していて、江戸時代の旅人気分であった。

翌日、本宿まで引き返し、法蔵寺に葬られている新撰組隊長・近藤勇の首塚と胸像を見て、赤坂宿に向かって歩いた。

赤坂宿は、昨日泊った大橋屋のほかは、本陣の門が一つ残るだけ。次の御油宿の入口には、日本一といわれる松並木が残る。本陣跡は碑だけだが、連子格子の家並みが残り、かつてのにぎわいをしのばせる。

２０１５年の初歩きは3月28日、豊川稲荷に参拝してから吉田宿に向かった。

旧道を歩き、豊橋を渡ると吉田宿。宿場入口にある西惣門跡は、門の下側を切って台の上に置いてあり、なんとも悲しい姿である。本陣、脇本陣は碑のみ。吉田城跡は、隅櫓が復元されて建っている。五分咲きの桜が映えて美しい。

豊橋駅近くで泊まり、翌日、二川宿に向かって歩く。途中、昔から観音霊場として知られる岩屋観音に寄り道した。行基作の千手観音像が祭られ、岩山には大小の石仏が祭られ、山頂に青銅の観音像が立っている。

二川宿本陣は、東海道には2か所しか現存しない本陣の一つで、豊橋市が江戸時代の姿に復原して公開している。隣には、旅籠屋・清明屋が改修・復原されている。併設の資料館は、江戸時代の街道や宿場について、分かりやすく興味深い展示であった。

清水計枝（64期）

愛知県豊橋市の二川宿本陣で

神田美容外科形成外科医院
院長・医学博士
征矢野　進一（69期）
千代田区鍛冶町二－七－二
〇三－三三五七－〇一一一

音楽家・コカリナ演奏家
黒坂黒太郎（正文）66期
http://www.kocarina.net/

句会の楽しみ
やまびこ句会

やまびこ句会も発足して約3年になる。句会は児玉一江先生の指導の下当季雑詠で行っている。月1回の句会当日までに5句をそろえるのにいまだに四苦八苦の状態である。俳句の楽しみは作ることと鑑賞することであるという。選句で自分の作品が選ばれることは励みになり、また他の人の句を読んで思いがけない斬新な題材、表現等に感心させられることも多い。これからも季節を感じ取り楽しみながら句作を続けたいと思っている。

荻原隆治（61期）

やまびこ句会（11月～2月）

蒼天（そうてん）に芽吹く辛夷（こぶし）や奥秩父　（一江）
煌々（こうこう）と中天に月オリオンも　（奉男）
凍（し）み豆腐かつて信濃の風物詩　（正佳）
初買ひの夢のふくらむ銀座かな　（貴美）
水仙花入院十日母逝きぬ　（太郎）
日だまりの路地に一輪返り花　（隆治）
秋天に遊ぶ白雲富士の山　（正雄）
水仙の茎折れてなほ風の中　（平六）
凍（い）てし夜の時の過ぎゆく写経かな　（前歩）
天ぷらの椶（たら）の芽蕎麦（そば）を引き立てり　（孝昭）

土屋法律事務所
東京都港区虎ノ門１丁目１番15号
三田ビル３階（〒105-0001）
TEL　03-3580-8588
FAX　03-3539-7057
弁護士　土屋耕太郎（68期）